

# 普及活動現地情報

## 「農業現場では、今」

令和2年3月号



【伊都振興局】3/3 重点プロジェクト【省力化と新品種導入による柿産地の振興】  
～「刀根早生」の結果母枝せん除処理～

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

## はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



## < 目 次 >

	頁数
<b>I 海草振興局</b>	<b>1</b>
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～海南・下津農業の将来を考えるワーキングチーム会議を開催～	
<b>II 那賀振興局</b>	<b>2</b>
1. クビアカツヤカミキリ巡回調査を実施	
<b>III 伊都振興局</b>	<b>3</b>
1. 重点プロジェクト【省力化と新品種導入による柿産地の振興】 ～「刀根早生」の結果母枝せん除処理～	
<b>IV 有田振興局</b>	<b>4</b>
1. 温州みかん苗木の植付、有望中晩柑に関する研修会を実施	
<b>V 日高振興局</b>	<b>5－6</b>
1. ウスイエンドウの現地実証ほで生育状況調査を実施	
2. スターチスの種苗費削減に繋がる育苗技術の現地実証	
<b>VI 西牟婁振興局</b>	<b>7－8</b>
1. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】 ～ウメ「橙高」栽培実証園の施肥管理を行いました～	
2. ミョウガの根茎腐敗病に対する薬剤処理実証試験を実施	
<b>VII 東牟婁振興局</b>	<b>9－10</b>
1. アグリビギナー等技術経営研修会を開催	
2. 新宮市熊野川町三津ノ地域活性化協議会が第3回推進会議を開催	
<b>VIII 経営支援課（農業革新支援センター）</b>	<b>11</b>
1. 普及活動計画実績発表会を開催	

## I 海草振興局

### 1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】

#### ～海南・下津農業の将来を考えるワーキングチーム会議を開催～

3月2日、重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】活動の一環として、海南・下津地域の農業を将来に継承していくため昨年度設置した「海南・下津農業の将来を考えるワーキングチーム」の今年度第2回会議がJ Aながみねしもつ営農生活センターで開催した。

会議には、構成員である海南市産業振興課、J Aながみね、海草振興局農業水産振興課の担当職員、農業者代表（下津町農業士会(森岡利行会長)、下津町農業研究会青年同志会(榎本友紀会長)、J Aながみね下津柑橘部会(岡畑浩二会長))と下津町内援農主催者(大谷幸司氏)が出席し、今年度ワーキングチームで作成を予定している「下津の将来ビジョン実行計画」の内容について意見交換を行った。

また、下津町内援農主催者とJ Aながみねから援農に関する取組状況について説明が行われ、次年度に向けた下津地域オリジナル援農支援体制の構築について検討が行われた。

今後もワーキングチームでは農業者等を交えた会議を定期的で開催し、農業現場の課題や解決策について活発に意見交換を行いながら、海南・下津地域農業の維持発展に繋がる取組を提案していきたいと考えている。



ワーキングチーム会議

## Ⅱ 那賀振興局

### 1. クビアカツヤカミキリ巡回調査を実施

昨年 11 月に和歌山県内への侵入が確認されたクビアカツヤカミキリはバラ科の樹木で増殖する生態が知られており、モモ、スモモ、ウメなど本県の主力果樹品目に大きな被害を及ぼす恐れがある。

那賀地域は県産桃の 75%を生産する産地であり、地域内に本害虫の定着を許した場合、産地に与える影響は計り知れないと危惧されている。

このことから、クビアカツヤカミキリ早期発見・対処を目的とし、3月5日に地域内の果樹園や耕作放棄地、サクラが密生している場所の巡回調査を行った。

96 地点を調査した結果、クビアカツヤカミキリのものと思われる痕跡は発見されなかった。

農業水産振興課では、今後も定期的に巡回調査を実施し、クビアカツヤカミキリの侵入防止を図る。



モモに発生したコスカシバのものと思われるフラス（紀の川市花野）



サクラに発生したアリのものと思われるフラス（紀の川市貴志川町）

### Ⅲ 伊都振興局

#### 1. 重点プロジェクト【省力化と新品種導入による柿産地の振興】

##### ～「刀根早生」の結果母枝せん除処理～

農業水産振興課では、柿の摘蕾作業の省力化技術を普及させるため、九度山町内の柿園地で「刀根早生」の結果母枝せん除処理の実証圃を設置している。

「刀根早生」の結果母枝せん除処理は、剪定時に結果母枝の先端芽を切り返して結果枝を減らすことで摘蕾作業を省力化する技術で、令和元年度の調査では母枝当たりの作業時間が、摘蕾で約30%、摘果で約40%削減した。

本技術の連年処理が樹勢や収量に与える影響を検証するために、3月3日に実証圃場において5年目の処理を実施した。

処理樹は3樹で、平均で結果母枝326本/樹のうち191本/樹（約58%）に処理を行った。処理時間は平均で14分34秒/樹であった。

当課では、次年度も摘蕾や摘果での省力効果や収量に与える影響を調査するとともに講習会を開催し、本技術の普及を進めていく。



結果母枝先端せん除処理



処理後の結果母枝

## IV 有田振興局

### 1. 温州みかん苗木の植付、有望中晩柑に関する研修会を実施

農林水産振興課では、就農して間もない農業者を対象に実施している「アグリビギナー等技術経営研修」を3月9日に実施した。

8名の参加があり、有田川町奥の辻岡誠之氏（4Hクラブ員）の園地にて、勝丸苗木の勝丸芳光氏（地域農業士）から、植穴の準備に始まり、植付時の注意点、順調に生育させるための管理のポイントまで、資料と実演を交えて説明を受けた。

参加者から、植付間隔や病害虫の防除時期、2年目以降の管理方法など多くの質問があり、実物の枝をつなぎ合わせて来年の状況をイメージしてもらうなど、勝丸氏から分かりやすい説明があった。

終了後、果樹試験場に移動し、同試験場宮井副主査研究員より、有望中晩柑（果樹試験場育成の「はるき」を含む12品種）についての説明を受け試食を行った。

参加者は、苗木の入手方法や栽培上の注意点などを質問するほか、試食の感想を参加者同士で話し合っていた。

今後も当課では、新規就農者が地域の担い手として定着するための取組を継続していく。



温州みかん苗木の植付について



有望中晩柑について

## V 日高振興局

### 1. ウスイエンドウの現地実証ほで生育状況調査を実施

農業水産振興課では、ハウスウスイの省力的な安定生産を図るため、草丈を抑えられる「みなべ短節間1号」の導入に向けた取組を進めている。平成27年12月にみなべ町の大野光男氏のほ場で発見された「みなべ短節間1号」は、従来品種の「きしゅううすい」よりも節間が短く草丈の低いのが特長であり、平成31年3月に出願公表された。本品種を導入により従来品種と比べ、収穫等の作業負担の軽減が期待されている。

令和元年度は、管内3か所に現地実証ほを設定し、JA紀州、県農、暖地園芸センター、振興局からなる日高野菜花き技術者協議会（大野隆之会長）が、これまで9回調査を行ってきた。今後も栽培終了まで調査を実施する。

また、令和2年度においても、「みなべ短節間1号」の品種特性に応じた栽培技術の確立と普及性を確認するため、引き続き調査を継続する。



みなべ短節間1号の現地実証ほ場

生育状況調査(12月11日)

(左: みなべ短節間1号 右: きしゅううすい)

### 2. スターチスの種苗費削減に繋がる育苗技術の現地実証

農業水産振興課では、スターチスの種苗費削減による産地の強化に取り組んでおり、その一環として、日高野菜花き技術者協議会（以下、協議会）と協力して暖地園芸センターが開発した常温育苗技術\*1の現地実証を行っている。今年度は、御坊市に2カ所の実証ほを設置し、県育成の「紀州ファインラベンダー」と「紀州ファインバイオレット」について固化培地\*2を利用した常温育苗苗とポリポットによるクーラー育苗苗の切り花本数を調査した。

3月10日に協議会花き部会で現地検討会を実施したところ、常温育苗でもクーラー育苗と同等以上の切り花が得られることを確認できた。一方、出席者からは今年の結果だけでなく、複数年の結果を確認したうえで普及に移すべきとの慎重な意見もあった。引き続き、現地実証を続けて生産者への周知に努めるとともに、実際に常温育苗を行う際の技術的な要点



を明らかにして普及に移していきたい。

\*1：無加温雨よけ施設のもとで空調設備などを使わず、成り行き気温条件で育苗すること

\*2：ポリエステル繊維や不織布などで培土を崩れないように成型した培地



実証ほにおける現地検討会（3月10日）

## VI 西牟婁振興局

### 1. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】

#### ～ウメ「橙高」栽培実証園の施肥管理を行いました～

農業水産振興課では、ウメの梅干し以外への加工用途拡大を図るため、4年前から自家和合性を有し、機能性成分（β-カロテン）が豊富な「橙高」の導入推進に取り組んでいる。

3月19日、田辺市上芳養の「橙高」栽培実証園において、肥料と堆肥の施用を行い、園主、JA紀南営農指導員、うめ研究所及び当課職員の計8名が参加した。始めに前田普及指導員から管理作業の手順（防草シートを剥がす→株回りの除草→施肥→堆肥の施用→防草シートの敷設）を説明し、手分けして効率良く作業を終えた。今年で6年生樹となり、順調に樹容積が増加するとともに、収量も増えてきている。これまでは肥効調節型肥料を年1回施用してきたが、今後は樹の生育や収穫量に応じて分施することも検討する。

当課では「橙高」栽培実証園で得られた調査結果や品種特性を広く生産者に周知するとともに、ウメの新たな需要拡大に向けた加工品開発への支援を関係機関と連携して行う。



肥料の施用

### 2. ミョウガの根茎腐敗病に対する薬剤処理実証試験を実施

JA紀南管内では、山間地域において、梅等の果樹との複合経営品目の1つとして、みょうが研究会（栽培農家47戸、栽培面積54a）によりミョウガ栽培が行われているが、近年、重要病害である根茎腐敗病が発生し、収穫量が減少している。

農業水産振興課では、ミョウガの根茎腐敗病に対する防除体系を検討するため、昨年からの田辺市秋津川の実証圃において、生産者やJA紀南営農指導員と連携し、登録農薬による効果の比較試験を実施している。

2月3日、根茎腐敗病発生圃場のミョウガを掘り上げ、バスアミド微粒剤による土壌消毒を行った。3月18日には、掘り上げたミョウガの根茎をランマンフロアブル200倍液に浸漬処理した後、土壌消毒済の圃場に植え付けた。

当課では引き続き、生産者やJA紀南営農指導員と連携し、定期的な薬剤処理や防除効果

の検討を行い、生産者に効果的な防除法を周知し、根茎腐敗病のまん延防止対策を推進していく。



土壤消毒の実施(2月3日)



植え付け作業(3月18日)

## Ⅶ 東牟婁振興局

### 1. アグリビギナー等技術経営研修会を開催

3月17日、新規就農者の農業技術の向上を目的として、アグリビギナー等技術経営研修会を開催し、新規就農者・関係者計6名が参加した。

那智勝浦町の指導農業士である塩崎一男氏を講師として、自身の経営及び接ぎ木技術について講義いただいた。塩崎氏は管内のナス組合の接ぎ木苗を受注生産しており、また、自身の経営用にトマトの接ぎ木苗も生産している。研修会では、塩崎氏から接ぎ木の種類の説明や、トマトの割り接ぎの実演があった後、説明を受けながら一人ずつ接ぎ木の実習をおこなった。また、トマト及びキュウリの栽培ハウスの見学も行い、栽培方法について説明を受けた。

参加者からは、接ぎ木苗を生産するのに必要な設備や播種時期、接ぎ木後の苗管理等についての積極的な質問があり先輩農業者と新規就農者との交流の場にもなった。

農業水産振興課では、今後も新規就農者の技術習得及び経営の参考となる研修の機会を設け、新規就農者を支援していく。



接ぎ木実習



ハウス見学

### 2. 新宮市熊野川町三津ノ地域活性化協議会が第3回推進会議を開催

3月26日、三津ノ地域活性化協議会（下阪殖保会長）は、同協議会の第3回推進会議をJAみくまの熊野川営農センターで開催し、関係者14名が参加した。

会議では、今年度の活動報告と来年度の活動予定について主に話し合われた。来年度は、引き続き田植え体験やトウモロコシ、タマネギの栽培を行うとともに、新たにエダマメ栽培に取り組んでいく。また、このような三津ノ地域で作った野菜を使い、福祉団体との連携による配食サービスも引き続き行っていく。

更に、三津ノ地域の観光や農産物・特産品、同協議会の取組などを紹介した「三津ノ地域マップ」が完成したので配布用に地域内の色々な場所に配置し、地域のPRにつなげていく。

農業水産振興課では、引き続き三津ノ地域活性化協議会の活動を支援していく。



第3回推進会議



三津ノ地域マップ

## Ⅷ 経営支援課（農業革新支援センター）

### 1. 普及指導計画実績発表会を開催

3月17日、県民文化会館（和歌山市）において県農業改良普及連絡協議会会員出席のもと、標記発表会を開催した。本協議会は、農業改良普及活動が地域ニーズを反映させ、より活動の成果が上がることを目的に設置したもので、今回は会員（構成員：先進的農家、JA、市町村、学識経験者、マスコミ、民間等）から普及指導計画に基づく活動への意見や評価を受けた。

和歌山大学食農総合研究所岸上光克副所長が座長進行のもと、各振興局で取り組んでいる普及指導計画重点プロジェクト8課題（うち1課題は産地ブランド発掘事業を兼ねる）、経営支援課から日高郡と西牟婁郡にまたがって実施しているウメとミカンのスマート農業開発・実証プロジェクトについて担当者から発表を行い、会員から忌憚のない意見や提案を受けた。

会員からは、和歌山県の育成品種である「紀州てまり」の導入メリットについてや、県内果樹産地でのスマート農業の進め方などについて質問が出された。

最後に、座長から「本日の発表については、地域の課題に即したもので、取組を進めていただきたい。また、今までは、技術指導が中心であったが、今後、担い手が減少するなか、地域、産地を維持する取組が必要になってくる。これらの課題は、農家、県、JAだけで解決するのは難しく、大学など関係機関とも連携して取組を進めていただきたい」と講評いただき、本年度の実績発表会を終了した。



重点プロジェクトの報告

### 普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489